



TITLE:

# Schur Index and Schur Group (SEMINAR ON PERMUTATION GROUPS AND RELATED TOPICS)

AUTHOR(S):

山田, 俊彦

---

CITATION:

山田, 俊彦. Schur Index and Schur Group (SEMINAR ON PERMUTATION GROUPS AND RELATED TOPICS). 数理解析研究所講究録 1978, 325: 196-200

ISSUE DATE:

1978-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/104058>

RIGHT:

## Schur Index and Schur Group

都立大 理 山田 俊彦

筆者の講演では, Schur index ならびに Schur group に関して最近えられたいくつかの結果について, [1], [3], [4], [7] を中心にして述べた。そこでは [5] において与えられた  $p$  進体上の円分多環 (cyclotomic algebra) の index の公式が一つの中心的役割を演じている。[1], [3], [4] は既に印刷されているので, ここでは [7] で得られている結果を説明しよう。それは次の定理の精密化である。

定理 1 (Fein-Yamada [2]).  $G$  は有限群,  $\chi$  は  $G$  の複素既約指標,  $m = m_{\mathbb{Q}}(\chi)$  は  $\chi$  の有理数体  $\mathbb{Q}$  上の Schur index,  $p$  は素数, そして  $m$  の  $p$ -part が  $p^r > 1$  とする。そのとき  $p^{r+1}$  が  $G$  の exponent を割るか,  $p^r$  が  $G'$  ( $G$  の交換子群) の exponent を割る。さらに  $p=2$  であるかまたは  $p \neq 2$  で  $G$  の  $p$ -Sylow 群が abel ならば,  $p^{r+1}$  が  $G$  の exponent を割る。また  $p^{2r}$  は  $G$  の位数を割る。

さて  $l$  を素数,  $\mathbb{Q}_l$  を  $l$  進体,  $K$  を  $\mathbb{Q}_l$  上の円体, 即ちある  $1$

の中根  $\zeta'$  が存在して  $\mathbb{Q}_\ell \supset \mathbb{k} \supset \mathbb{Q}_\ell$  とする.  $\mathbb{k}$  上の *cyclotomic algebra* とは 次のような接合積のことである:

$$(1) \quad B = (\beta, \mathbb{k}(\zeta)/\mathbb{k}) = \sum_{\sigma \in \mathcal{G}} \mathbb{k}(\zeta) u_\sigma, \quad (u_1 = 1),$$

$$(2) \quad u_\sigma x = \sigma(x) u_\sigma \quad (x \in \mathbb{k}(\zeta)), \quad u_\sigma u_\tau = \beta(\sigma, \tau) u_{\sigma\tau}.$$

ここで  $\zeta$  は 1 の中根,  $\mathcal{G}$  は  $\mathbb{k}(\zeta)/\mathbb{k}$  の Galois 群,  $\beta$  は因子団で, その値は  $\mathbb{k}(\zeta)$  に含まれる 1 の中根である.  $\beta$  は次のような積に書くことができる:

$$(3) \quad \beta(\sigma, \tau) = \alpha(\sigma, \tau) \gamma(\sigma, \tau), \quad (\sigma, \tau \in \mathcal{G}),$$

$\alpha(\sigma, \tau)$  は  $\ell$  と素な位数の中根,  $\gamma(\sigma, \tau)$  は 1 の  $\ell$  中根.

さて  $\ell \neq 2$  としよう.  $\mathbb{k}(\zeta)/\mathbb{k}$  の inertia group を  $\langle \theta \rangle$ ,  $\phi$  を Frobenius 置換とする.  $\theta$  の位数  $e$  は次のように書かれる:  
 $e = \ell^t \cdot e'$ ,  $e' \mid \ell - 1$ .  $f$  を  $\mathbb{k}/\mathbb{Q}_\ell$  の惰性次数とすると, 1 の  $\ell^t - 1$  乗根  $\zeta_{\ell^t - 1}$  は  $\mathbb{k}$  にぞくする.

定理 2 (Yamada [5]).  $\ell$  を奇素数,  $\mathbb{k}$  を  $\mathbb{Q}_\ell$  上の円体,  
 $(\beta, \mathbb{k}(\zeta)/\mathbb{k}) \sim (\alpha, \mathbb{k}(\zeta)/\mathbb{k}) \underset{\mathbb{k}}{\otimes} (\gamma, \mathbb{k}(\zeta)/\mathbb{k})$  を (1) - (3) で与えられる  $\mathbb{k}$  上の円分多環,

$$\delta = (\alpha(\theta, \phi)/\alpha(\phi, \theta)) \alpha(\theta, \theta) \alpha(\theta^2, \theta) \cdots \alpha(\theta^{e-1}, \theta)$$

とすると,  $\delta = \zeta_{\ell^t - 1}^v$  ( $v$  はある整数) と書ける. そして円分多環  $(\beta, \mathbb{k}(\zeta)/\mathbb{k})$  の index は  $e'/(v, e')$  に等しい.

系 3. 記法は定理 2 と同じとする. もし factor set  $\beta$  の

値がすべて  $\ell$  と素な位数の 1 の中根で, かつ  $e=e'$  とするならば, 円分多元環  $(\beta, k(\zeta)/k) = \sum_{\sigma \in G} k(\zeta) u_\sigma$  の位数は  $[u_\theta, u_\phi] = u_\theta u_\phi u_\theta^{-1} u_\phi^{-1}$  の位数と  $u_\theta^{\ell^f-1}$  の位数の最小公倍数を割り切る.

系 3 と Brauer-Witt の定理を用いると,  $\ell$  進体  $\mathbb{Q}_\ell$  上の Schur index に関する次の定理が得られる.

定理 4.  $G$  を有限群,  $\chi$  を  $G$  の既約指標,  $\ell$  を奇素数,  $p$  を素数,  $\chi$  の  $\mathbb{Q}_\ell$  上の Schur index  $m_{\mathbb{Q}_\ell}(\chi)$  の  $p$ -part が  $p^n > 1$  とする. そのとき  $p^{2n}$  は  $G$  の exponent を割るか,  $p^n$  は  $G'$  の exponent を割る. もし  $G$  の  $p$ -Sylow 群が abel なら,  $p^{2n}$  が  $G$  の exponent を割る.  $p^{2n}$  が  $G$  の exponent を割らなければ,  $p^{2n+1}$  が  $G$  の位数を割る.

次に 2 進体  $\mathbb{Q}_2$  の場合を考察してみよう. 既約指標  $\chi$  に対して  $m_{\mathbb{Q}_2}(\chi) = 1$  の 2 であることはよく知られている.

定理 5.  $G$  を有限群,  $\chi$  を  $G$  の既約指標とする. もし  $m_{\mathbb{Q}_2}(\chi) = 2$  ならば  $2^2$  が  $G$  の exponent を割り,  $2$  が  $G'$  の exponent を割り,  $2^3$  が  $G$  の位数を割る.

注意.  $\mathbb{R}$  を実数体とする.  $G$  が  $m_{\mathbb{R}}(\chi) = 2$  なる既約指標  $\chi$  を持つ場合, 必ずしも  $2$  は  $G'$  の exponent を割らないし, また  $2^3$  は  $G$  の位数を割るとは必ずしもいえない. その例は  $G = \langle a, b \rangle$ ,  $a^6 = 1$ ,  $b^2 = a^3$ ,  $bab^{-1} = a^{-1}$  により与えられる.

さて  $\mathbb{Q}$  上での Schur index に関する上記の結果と, Fein-Yamada Theorem の一部分を用いて, 有理数体  $\mathbb{Q}$  上の Schur index に関する次の結果が得られる.

定理 6.  $G$  は有限群,  $\chi$  は複素既約指標,  $m_{\mathbb{Q}}(\chi)$  の  $p$ -part は  $p^n > 1$  とする. そのとき  $p^{2n}$  が  $G$  の exponent を割るか,  $p^n$  が  $G'$  の exponent を割る.  $G$  の  $p$ -Sylow 群が abel ならば,  $p^{2n}$  が  $G$  の exponent を割る.  $p^{2n}$  が  $G$  の exponent を割らなければ,  $p^{2n+1}$  が  $G$  の位数を割る.

### References

- [1] M. Benard, Schur indices and cyclic defect groups, Ann. of Math., 103 (1976), 283-304.
- [2] B. Fein and T. Yamada, The Schur index and the order and exponent of a finite group, J. Algebra, 28 (1974), 496-498.
- [3] G. J. Janusz, Generators for the Schur group of local and global number fields, Pacific J. of Math., 56 (1975), 525-546.
- [4] G. J. Janusz, The Schur group of an algebraic number field, Ann. of Math., 103 (1976), 253-281.
- [5] T. Yamada, Characterization of the simple compo-

- nents of the group algebras over the  $p$ -adic number field, *J. Math. Soc. Japan*, 23 (1971), 295-310.
- [6] T. Yamada, *The Schur subgroup of the Brauer Group*, *Lecture Notes in Mathematics*, Vol. 397, Springer, Berlin-Heidelberg-New York, 1974.
- [7] T. Yamada, *More on the Schur index and the order and exponent of a finite group*, (preprint).